

視聴覚教育

NO. 392

発行日
25. 5. 30

発行

岡崎市AVL

編集

現職研修委員会

学習情報部

視聴覚用語

『CC』と『BCC』

宛先となる相手以外にも「参考までにメールを送りたい」という場合に「CC」にメールアドレスを入力する。受信者へ他の受信者がいることや、他の受信者のメールアドレスがわからないようにする場合、「BCC」を使用する。

!!視聴覚教育あれこれ!!
平成二十五年 度 学 習 情 報 部 方 針 決 定 !
研究主題

ICTを効果的に活用し、「生きる力」につながる情報活用能力と情報モラルの育成を充実させよう
研究の重点

①岡崎市教育ネットワーク及び校内ローカルエリアネットワークの利用環境整備と活用法の研究
②普通教室における大型ディスプレイ等のICTの効果的な活用法の研究

③パソコン教室の総合的な管理・運営方法の工夫と利用促進

④情報モラルの育成や情報のセキュリティ意識の向上のための実践推進

⑤授業で活用できるデジタルコンテンツの収集と活用法の研究

⑥校内放送や学校教育放送、教育チャンネルの活用法の研究

各主任会の活動

〔広報部会〕

「視聴覚教材・機器利用の手引き」や研究誌「岡崎の視聴覚教育」の制作・編集・発行、月報の原稿執筆と発行、など

〔研修部会〕

基礎研修会や初任者研修会の計画や実施、校内研修の推進と実績集約、パソコンソフトの利用促進と実績集約、NHK学校放送番組関連表の作成、機器の調査、など

〔教科部会〕

自作教材の活用と事例の集積、ICT活用の授業や情報モラル教育、ライブラリーの教材を活用した授業の実践と原稿執筆、デジタルコンテンツの集約や登録、など

21世紀にふさわしい豊かな学びに向けて

現職研修委員会学習情報部長 内田 義和

日本の国際競争力が低下している。これは、主に国民の英語力とICT活用力の低さに起因しており、教育界における喫緊の課題である。

そうした中、市内の小中学校では、これまで全国を先導する形で英語教育の充実とICT活用力向上に努めてきた。平成25年度の「パナソニック教育財団の実践研究助成」に、岡崎市から四校（うち一校は特別研究指定校）も選ばれたことは、岡崎の視聴覚・情報教育の質の高さが全国規模で認められていることの表れである。

一方、情報通信白書（総務省情報通信データベース）には、教育現場に必要なこととして、次の二つが挙げられている。

- ・ ICTを活用した授業形態の改革
- ・ 適切な指導ができる人材の育成

市内を見つめ直してみると、「協働学習」と言いつつ、未だに一斉学習の授業形態から抜け出すことができない授業の現実がある。そして、ICTへの苦手意識や、それを活用しようとする必要感の乏しい教師の存在も、まだまだ否定できない状況にある。

そこで、まず取り組まねばならないことは、先に述べた助成四校の実践を基軸として、市内の子供や教師のICT活用力の向上を図ることである。ICTを活用した授業形態を積極的に取り入れることで、これまでの一斉学習から解放され、今、求められている「授業イノベーション」を引き起こすことができるだろう。

さて、それと同時にもう一つ取り組まなければならない緊急の課題。それは、「情報モラル教育」である。便利なものは使い方を間違えると凶器にもなると言われるが、ネットワークの利用がこれに当てはまる。被害者となり、または加害者となって子供が巻き込まれる事件が後を絶たず、市内でも様々な問題が起きている。

そこで、この課題に当たるために特別委員会である「情報教育推進委員会」を再編成した。学習情報部、生徒指導部、道徳部、特別活動部が連携して情報モラル教育に取り組み、正しく安全なネットワークの利用をリードしていく。

以上のように、学びのイノベーションを進め、子供が安心してICTを活用し、「21世紀にふさわしい豊かな学び」ができるよう活動を推進していきたい。

Ⅱ平成二十五年学習情報部組織Ⅱ

部長

内田 義和（葵中長）
市川 敏彦（生平小長）
入山 定之（豊富小長）

担当指導主事

森 竜師（教育委員会学校指導課）

指導員

佐渡 英彰（矢南小） 川本 祐二（羽根小）

世話係

内田 雅之（大門小） 杉山 康子（生平小）
村田 貴志（六北中） 近藤 雄一（東海中）

各部世話係

〔広報部会〕

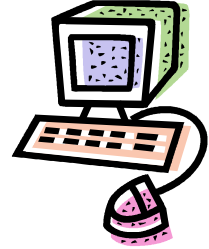
高瀬 玲子（愛宕小） 内田 雅之（大門小）
井上 清美（夏山小） 三輪 恭之（六美中）

〔研修部会〕

成瀬 正和（羽根小） 坂田 健一（岡崎小）
鈴木 一史（大樹寺小） 鈴木 広樹（六中小）
神野 裕美（六西小） 近藤 雄一（東海中）

〔教科部会〕

山口 秀樹（根石小） 杉山 康子（生平小）
峯澤 泰季（南 中） 岩川 皓司（葵 中）
村田 貴志（六北中）



各種大会 ・研究会の案内

《研究会》

- ・三教研自作教材研究会（八月）
- ・愛知県放送教育特別研究大会（八月）
- ※他にも多くの大会や研究会が予定されています。

《研修会》

- ・ビデオ講習会（七月）
- ・授業力アップセミナー（八月）
- ※この他に学習情報部の自主研修会（TAV）も九回予定されています。
- 是非ご参加ください。

《研究論文》

- ・インターネット活用教育実践コンクール（文科省主催）

- ・パナソニック教育財団実践教育助成
- ・東京書籍教育賞

- ・ちゅうでん教育振興助成、ちゅうでん教育大賞

※県や市の教育論文をはじめ多くの機会があります。日頃の実践成果をまとめてみましょう。

《コンクール》

- ・岡崎市ふるさとメディアコンクール
- ・愛知県自作視聴覚教材コンクール
- ・RISO「育て！プリントコミュニケーション」コンクール

《児童・生徒のコンクール》

- ・NHK杯中学校放送コンテスト愛知県大会
- ・全国「こども科学映像祭（日本視聴覚教育協会主催）」
- ・パナソニック「KWIN」コンテスト
- ・学習ソフトウェアコンクール（学情研主催）

※児童生徒の作品コンクールも多数あります。

ライブラリーだよ

所長

齊藤 勝英（教育部次長兼務）

所長補佐

岡 秀之

職員

鳥居 貴浩 服部 光晴
近藤 健司 西村 知江

新年度がスタートしました。ライブラリーでは、機器・教材の活用について、社会教育・学校教育関係者を対象に次のような支援をしていますので、ご活用ください。

●教材・機材の貸し出し

教材・機材の検索や予約はライブラリーのホームページから簡単にできます。特に教材は、巡回郵便を利用して受け取ったり返したりすることも可能です。授業やお昼の校内放送などにご活用ください。

●リクエスト講習会

撮影や編集の支援を行っています。児童・生徒によるビデオ制作、先生方のビデオ教材制作講習会等のお手伝いにライブラリー職員が伺います。また、学校行事等の撮影、編集や番組制作の支援も行います。

●情報モラル出前講座

ネットインストラクターを派遣して、ネット社会の危険な現状を保護者や地域の方々にご伝えたり、子供達をネット社会の闇から守っていくための具体的な手立てについて話したりします。

